



自然景観を大切にした工事を見ました 魚がのぼれるように魚道もあった

白馬北小学校見学会

白馬の地を流れ、姫川と合流する松川と平川。北アルプスから流れ出る雨水を集め、急傾斜を一気に駆け下る両河川は、山岳地帯からの大量の土砂を運び、それが昔から災害をもたらしてきたため、多くの砂防施設があります。白馬北小学校は、この両河川の砂防施設を見学しました。

まず、最初に訪れたのが平川の源太郎砂防えん堤。古くから白馬の町を守り続けてきたこのえん堤の前で、昔は土石流災害に村人が苦しめられてきたことや、えん堤の役割を聞きました。昔作られた施設ですが、しっかりと管理されていて、今も現役で下流の町を守っています。

次に、その上にある昨年完成したばかりの横沢砂防えん堤に行きました。このえん堤はスリット式のダムで、魚もさかのぼれるようにしてあるそうです。また普段は

少しずつ土砂を流すようにできていることもゲスト講師から聞きました。このえん堤の表面は、少し変わっていました。一面に自然の石が貼り付けてあり、自然景観にも配慮しているそうです。

松川流域では、二股砂防えん堤を見学しました。子どもたちは、自分たちが立った河原の土砂が、実はえん堤によってせき止められた大量の土砂だということを知って驚きました。そこにはすでにたくさんの植物が成長していて、土砂がたまってから何年も経っていることもわかりました。松川の渓流保全工は広くて気持ちのよい場所です。キャンプ場近くで渓流保全工の役割や、私たちが水と親しめるよう工事にも配慮していることを知りました。



日本三大崩壊の一つ、稗田山を見た 昔、たいへんな災害があったんだ

南小谷小学校見学会

南小谷小学校は、見学会で稗田山の崩壊地を訪れました。南小谷は1911年（明治44年）の稗田山の大崩壊によって特に大きな被害を受けています。大崩壊の土砂によって姫川がせき止められ、洪水が発生して大惨事となりました。立山のとび崩れ、静岡・安倍川の大谷崩れと並んで日本三大崩壊の一つにあげられている稗田山は、今も大量の土砂を出し続けています。子どもたちは崩れた様子がよく見える金谷橋の上から見学しました。山のこちら側がごっそりと大きくずり落ちたように崩れているのを見て、子どもたちもビックリ。橋の下を流れる浦川も荒々しく、たくさんの土砂を運んでいる様子が分かりました。

次は、その下流の砂防施設の見学。大きなアーチ型の穴（暗きょ）があいた浦川スーパー暗きょ砂防えん堤の



近くまで行き、その役割の説明を聞きました。

普段は暗きょから少しずつ土砂を下流に流し、多量の土砂が出たときにはしっかりと受け止めて、土石流災害を防ぎます。

ここでも子どもたちからたくさんの質問が出ていました。小谷村の災害は何回あったのか、稗田山は何回崩れたのか、など熱心な質問です。みんな真剣にメモを取り、講師の説明を聞いていました。事前に砂防についての学習をしていたので、えん堤の実物を目の前にして、説明の意味もよく分かりました。

その他、小滝川のヒスイ峡と学習護岸を見学したり、蒲原沢の国界橋にある慰霊碑にも行きました。ヒスイ峡では高く切り立った岩壁に驚き、河原にある巨岩にも驚きました。学習護岸では災害と護岸のことを学習しました。次に立ち寄った蒲原沢の慰霊碑前では、平成8年の災害のことや、そこで14名の方々が亡くなられたことも聞き、土石流災害の怖さを知りました。みんなで碑の前で手を合わせ、亡くなられた方々のご冥福を祈りました。

